

広島県総合計画審議会第6回小委員会 議事録

- 1 日 時 令和7年8月21日（木）午後3時00分から4時30分まで
- 2 場 所 広島市中区基町10番52号
広島県庁北館2階 第2会議室及びweb
- 3 出席委員 伊藤委員長、上野由紀子委員、金澤委員（web）、牛来委員、
佐渡委員（web）、日高委員、本多委員
- 4 議 題 安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン改定の骨子案
- 5 担当部署 広島県総務局経営企画チーム地方創生担当
電話：（082）513－2396（ダイヤルイン）

6 会議の内容（議事要旨）

【安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン改定の骨子案】

事務局から、安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン改定の骨子案について、資料1により説明

（委員長）

- ・ 特に、特に考慮が必要な情勢変化の捉え方、5つの柱立ての整理の仕方、重点項目について、御意見いただきたい。

（委員）

- ・ 様々ある領域を5つの柱に分けるという整理の仕方は、大変分かりやすくなったという印象で、頭に何々づくりという見出しがあり、何を伝えようとしているのかがイメージしやすいまとめ方になっている。
- ・ 情勢変化の内容や分析については、共感するものである。しかし、（2）の「急増する県内の外国人労働者や観光客、緊迫化する国際情勢」について、外国人労働者や観光客が多く広島に来るようになってきているという状況と、ロシア・ウクライナ紛争などの国際情勢が大きく変化している状況は異質なものである。（5）の「インフレ傾向と賃金上昇の兆し、不確実性の高まる経済情勢」に移行し、この国際情勢が国内の経済に影響を与えているというまとめ方が、すっきりする。
- ・ 「シン・ファミリーフレンドリー」について、非常に注目を浴びやすい。「シン・ゴジラ」に象徴されるような、「シン」と付けていくということは、ここ数年様々な場面で使われているので、フックとなって人々の関心を引きやすいキーワードになっている。また、1つの「シン」という言葉に複数の意味を持たせるというやり方も最近よく見かけるので、違和感もない。
- ・ 3ページ目にある四角囲みの「シン・ファミリーフレンドリー」の説明文について、最後の行に2回目の「ファミリー・フレンドリー」の言葉があるが、ここには「シン」を入れた方がよいのではないか。
- ・ 13ページ目の体系図について、「シン・ファミリーフレンドリー」というキーワードを入れたことによって、「基本理念」、「目指す姿」、「目指す姿の実現に向けた基本的な考え方」、そして最後に「目指す姿の実現に向けた今後5年間の方向性“シン・ファミリーフレンドリー”」と4つの概念が体系図にあることとなった。この4つの関係性を考えたときに、特に3番目の「目指す姿の実現に向けた基本的な考え方」がここに入るのがいいのか。一番上にある「基本

理念」は広島県が目指す一番重要な理念、2 番目の「目指す姿」と4 番目の「目指す姿の実現に向けた今後 5 年間の方向性」は、施策によって広島県民が手に入れられるもの、3 番目は、県民が手に入れるものというよりは、県がこれから何かをやっていくときの条件付けまたは手法になっており、県民が手に入れるものの間に手法が入っていることに違和感がある。この3 番目と4 番目を入れ替えてはどうか。

(事務局)

- ・ 総合計画審議会の委員から、ビジョンの「目指す姿」や「目指す姿の実現に向けた基本的な考え方」と17の施策領域との接続が分からない、そのストーリー性が分からないというこれまでの意見を踏まえ、「シン・ファミリーフレンドリー」というキーワードを出し、5つの柱を設定するといった整理をした。
- ・ 社会経済情勢の「急増する県内の外国人労働者や観光客、緊迫化する国際情勢」のうち、緊迫化する国際情勢を「インフレ傾向と賃金上昇の兆し、不確実性の高まる経済情勢」に移行することについては、御指摘のとおりであるため、8月28日開催の総合計画審議会、または素案の改定に向けて、修正等の検討をする。
- ・ 骨子案概要版の3ページ目の「シン・ファミリーフレンドリー」の四角囲いにある「ファミリー・フレンドリー」のうち、2番目は「シン」があるべきだと思うので修正する。
- ・ 体系図について、現行ビジョンの中で「基本理念」、「目指す姿」、そして「目指す姿の実現に向けた基本的な考え方」はセットで記載されているところもあり、事務局で再度、検討する。

(委員長)

- ・ 緊迫化する国際情勢は、例えば国際情勢と国民経済といった括りができるので、重要な意見だと思った。

(委員)

- ・ すごくインパクトがあり、県民にも伝えやすいなと思った。
- ・ 生活のステージ、人生のステージで、その一時一地点でこんな支援が欲しいということは色々あるが、人生満足度で考えると、働きたい人が働けるというこの安心感がベースにある。12ページの重点項目のうち、「強固な経済基盤の確立」が一丁目一番地でベースにあると思うが、これが17の施策領域とどのように関わっていくのかわからない。また、シン・ファミリーフレンドリーの中でも、どのように関わるのかわかりにくい。

(事務局)

- ・ 13ページの体系図の全体像になるが、上から「基本理念」、「目指す姿」、「目指す姿の実現に向けた基本的な考え方」、「目指す姿の実現に向けた今後5年間の方向性」を示した上で、行政として県民に対して17の施策領域を満遍なく施策を講じていかないとはいけないと考えている。ここまでが一般的な行政の役割と思っている。また、人口減少が著しいスピードで進んでいるという状況の中で、今後5年間、何を特に注力していくのかというのを整理したのが、「今後5年間で特に注力する重点項目」である4つの応援と強固な経済基盤の確立となっている。
- ・ 働きやすい職場をつくることについては、施策の柱「多様な主体が、生き生きと働きがいをもって活躍できる仕事づくり」の領域をベースに行っているが、「今後5年間で特に注力する重点項目」として上乗せでやっていくということ。

(委員)

- ・ 湯崎知事が不出馬の表明をされたが、どのような影響があるのか。「今後5年間で特に注力する重点項目」にも影響があるのではないか。

(事務局)

- ・ まず 17 の領域は、行政として全ての県民に満遍なくやっていかないといけない施策だと思っているので、ここの部分は知事が変わったとしても、継続してやっていくべきものだと考えている。その中で、今回示した「今後 5 年間で特に注力する重点項目」について、知事によって、考えが変わってくる可能性はあると思う。
- ・ また、今回は骨子案の審議であり、次に素案の審議がある。素案の段階で、新しい知事にも当然、確認してもらうので、柔軟にアップデートするということも考えながらやっていきたいと考えている。

(委員)

- ・ 企業が“らしさ”を追求するとき、企業は、私の企業はこうですというスタンスを示すものである。広島県が“らしさ”を示すためには、この施策を前面に出すことで県民が分かって、県民はそれをもとに知事を選ぶという形になるのかと思うが、時系列的にはどうでしょうか。

(事務局)

- ・ 基本的に選挙になると、それぞれの候補者がマニフェストをつくられる。当選した方のマニフェストとビジョンをリンクさせていくというような作業になっていく。そのため、見せ方が変わってくる可能性も十分にあるかなと思っている。

(委員)

- ・ シン・ファミリーフレンドリーというキーワードはすごくいいなと感じている。ただ、これが 5 年後になった時に、古く感じるのかもしれないことは心配している。
- ・ 女性の活躍や産業イノベーションの中に、起業や創業についての記載がない。また、「今後 5 年間で特に注力する重点項目」の中には、先端産業の振興や生産性の向上による持続的な賃上げについての記載はあるが、中小企業への支援などの記載はないが、そのあたりはどうなのか。ここに言葉がないということは、今後の具体的な施策についても重点的には行われえないという意味になってくるのか。

(事務局)

- ・ あくまでも骨子案の段階であり、現在示しているのは目指す姿や取組の方向というレベルのものを記載している。今後、素案を策定する中で、より具体的にどういったことをやっていくのかを記載していきたいと考えている。そもそも表題がないと中身も書けないということもあるので、意見を踏まえて調整をしていきたい。

(委員)

- ・ 女性の創業や起業に注目したとき、内閣府男女共同参画局策定の「女性版骨太の方針」には、1 つ目に起業支援がでています。女性の活躍推進の中にそれがでてきているのに、創業や起業支援、小規模企業の支援ということを言葉としても入れられないか。

(事務局)

- ・ 現時点では読み取れるキーワードはないので、意見を踏まえて、検討していく。

(委員)

- ・ 農林水産業の関係は非常にいい形でまとまっており、全体を通して問題なく進めていけるかなとは思っている。
- ・ 起業や創業のことにも関わってくると思うが、中山間地域では、継続的な事業承継や事業継

承が非常に大きな課題となっている。広島県の事業継承は、10年前は全国ワースト1、2位ぐらいだったが、現在は、おそらく全国で22位ぐらいになっている。農業や漁業はかなりデリケートであり、中小企業も同様だが、同族経営でつないでいく、もしくは第三者継承となっている。そういったところの支援について、現在記載がないので、創業と併せて、継続という観点からの記載もあってもいいのではないか。

- ・ 13ページの体系図を活用し、市町とも連携しながら、県民に理解してもらえる環境づくりも必要ではないか。

(事務局)

- ・ 農業や漁業分野での事業継承については、農林水産業の領域において「地域の核となる担い手の育成」など、施策の方向を見直すことを考えているが、意見が今後素案を策定する中で、具体的に書き込んでいけるか検討していく。
- ・ ビジョンを策定した後は県民に分かりやすい形で浸透していかないといけない。ビジョンで描いている目指す姿を実現するためには、行政だけではできないことであり、県民の協力も当然必要となるので、意見はごもっともである。策定した際にはしっかり県民に広報していきたい。

(委員)

- ・ これまでの審議会での色々な意見をうまく取り入れ、重点項目も設定し、そして、17の施策領域が有機的になるよう、これまで並列にしていたものを円にし、それぞれがつながっているということを表現できている。
- ・ 「シン・ファミリーフレンドリー」の「シン」は、新しいという意味を思ってしまうので、「シン」のところを強調し、読まれた方が、「シン」が意味するものを分かってもらえるようにした方が良い。
- ・ ビジョンについては、県民として実感が持てる、私たちの生活はこうなるのか、広島県は何を目指しているのかが分かるようにし、そして、自分もそこでやりたい、一緒にやっていきたいと思ってもらえるようになれば良い。
- ・ 性被害についての記載はないが、DV被害が入ったことは1つ前進したと思う。
- ・ 社会経済情勢の内容は網羅されていると思うが、「自然災害の激甚化・頻発化や顕在化したリスクへの対応」について、最近、自然災害が非常に待ったなしの状況で、避難所などをどうしていくのか大事だと思うので、重点項目には入れなくていいのか。
- ・ 施策の柱について、活躍できる仕事づくりや社会づくり、環境づくりが行政的な言葉となっており、これからつくっていくのかなという感じを受ける。既にできているものもあるので、未来の目指す姿をタイトルにされても良いのかなと思った。

(事務局)

- ・ 「シン・ファミリーフレンドリー」の「シン」というのがどういった意味かをしっかり県民に伝わるように、その周知、広報というのは考えていきたい。これを県民に理解してもらわないと一緒に取り組んでいってもらえない。行政だけがやっていくことになってしまうので、意見を踏まえてしっかりと伝わるように考えていきたい。
- ・ DVについては、5ページの地域共生社会領域で新たに「DV被害者や困難な状況にある女性等への支援体制の確保」を新設した。性被害がないなという意見については、女性支援新法の中に困窮の女性や性被害を受けられた女性などが対象になっているので、この中で性被害についてもしっかり取り組んでいきたい。
- ・ 4つの応援と強固な経済基盤の確立を重点項目について、これはあらゆる社会経済情勢の変化がある中で、特に人口減少に着目したときに、こういったターゲットに対して重点的に施策

を講じていかないといけないという考えのもとで、設定したものである。確かに、社会経済情勢の変化全てを重点項目にするという考えもあると思うが、人口減少は極めて重大な課題だという認識のもとで、このビジョンを改定している。もちろん自然災害について、全くやらないということではなくて、防災・減災領域において、しっかり取り組んでいきたい。

(委員)

- ・ これまでの審議会でのやり取りがまとまった、分かりやすくなったというのが第一印象である。「シン・ファミリーフレンドリー」についても、誰もが暮らしやすいという説明があることで、広島は誰もが暮らしやすいとシンプルに伝わって良い。また、17の施策領域が円になり、つながっているということが分かりやすくなった。
- ・ 中山間地域領域については、ほぼ全てを見直しており、言葉がより分かりやすくなった。「人材の発掘・育成」が「確保・育成」に変わっていたり、「中小企業の成長支援」が「地域産業の維持・成長支援」など、成長というより維持が入ってほしいなと思っていたので、より良くなった。最後に「持続可能な地域づくりに向けた集落対策」が新規に入っているが、空き家対策についてもあった方が良いのではないかな。国の補助金で空き家対策のモデル事業というのが7月に発表された。その中で全国の中で47件採択された事業があり、そのうち広島県は廿日市市、江田島市、庄原市、東広島市の4件採択されている。同じ県で4件採択された都道府県はない状況で、広島県では空き家対策をやろうとしている人たちはいるので、何か言葉を入れてほしい。

(事務局)

- ・ 空き家対策については、素案の策定の中で、検討していきたい。

(委員長)

- ・ 資料1の2ページ(5)「インフレ傾向と賃金の兆し、不確実性の高まる経済情勢」について、資料2にあるCPIのグラフからすると、日銀が認めないだけで明らかに進んでいると思うので、2番目にある、「デフレからの脱却」は取って差し支えないと思う。
- ・ 3ページの「シン・ファミリーフレンドリー」を受けて、17の領域を5つの柱に整理されたが、その柱の「安心して妊娠・出産し、子供・若者が健やかに育つ社会づくり」について、子供・子育て、教育領域を紐づけことは全く問題ない。ただし、柱の名称が、いきなり妊娠・出産でいいのかが気になる。むしろ、結婚、婚姻率の方が問題であって、有配偶の出生率は、広島は比較的高い状況である。妊娠・出産、あるいは結婚を名称の頭に出すよりも、むしろ「シン・ファミリーフレンドリー」のキーワード、家族という言葉を出したらどうか。要は、安心して家族をつくることができる、それで地域社会を支える、産業、経済に貢献できるというような意味合いがここで出せたら良い。家族という概念も、中公新書で、家族社会学の方が解説書を書いているが、ファミリアの語源はすごく広いということで、男女ペアではなくてもっと広い意味での家族というのにもここに含んでいる。安心して家族をつくる中で子供・子育て、教育ができるという方が良いのではないかな。
- ・ 8ページの「人的資本経営」については、色々な取り方があると思うので、ビジョンの中ではどういったことを考えているかを明確にした方が良い。
- ・ 10ページの中山間地域領域について、これはこのままで良い。特に集落対策という点も重要で、色々な取組をされていることで反映されたのだろうと思う。ただし、現行ビジョンの中に、いわゆるコンパクト化、小さな拠点につながるような施策、事業があったと思うが、これは今回出てきていない。既存の集落を再編、維持する方が重要ではないかな。
- ・ 資料2の7ページにある希望出生率の式について、離死別等の数値が、独身者のみにかかっているが、両方にかかると思うので、かつこの位置を修正してもらいたい。

(事務局)

- ・ 概要版2ページの「デフレからの脱却」については、取るという方向で再度検討する。
- ・ 3ページの柱「安心して妊娠・出産し、子供・若者が健やかに育つ社会づくり」の名称についても検討する。させていただいた上で、また委員長とご相談させていただきたいと思います。
- ・ 「人的資本経営」については、馴染みのない言葉かと思うので、用語集などで分かるように記載したい。
- ・ 中山間地域のコンパクト化に向けた事業については、関係局と相談する。
- ・ 資料2の希望出生率については、再度確認する。

(委員)

- ・ 「安心して妊娠・出産し、子供・若者が健やかに育つ社会づくり」について、いきなり妊娠・出産といわれると非常に、女性として聞いたときにプレッシャーを感じる。妊娠して出産するというのが、広島で過ごすことにとってとても重要なことだと突きつけられているような気持ちにすらなる瞬間がある。今回「シン・ファミリーフレンドリー」というファミリーをキーワードに出すので、家族というキーワードを先に出して表現することができれば、多くの人が大変やんわりと受け止められてうれしいのではないかなと思った。
- ・ 概要の13ページの真ん中「目指す姿の実現に向けた今後5年間の方向性」でも家族というキーワードがある。その説明の1行目についても気になり始めた。「家族と一緒に暮らしやすい社会」、ここに「一緒に」という言葉を入れた方が良いのか。一緒にということが同居であるとイメージしてしまうと、これはまた特定の暮らし方を求められているように聞こえてしまう。そのため、特段一緒になくてもいい、家族がともに暮らせるということであればいいように思うし、家族が支え合いながらともに挑戦し続けるような生き方ができればいいように感じた。そうしたら、単身世帯とかひとり親世帯との類似性というのも出てくる。一緒に住んでいるのが広島県の目指す姿といわれるよりは、家族が支え合いながら過ごしていることが良いと思っているという受け止め方が生まれるような表現の方が良いのでは。

(事務局)

- ・ 「シン・ファミリーフレンドリー」を考えるときに、ひろしま未来チャレンジビジョンで記載していたファミリー・フレンドリーをそのまま引用してきたところがある。確かに時代状況が変化しているので、そこに配慮した形で全体をもう一度見直していく。

(委員)

- ・ 中山間地域のコンパクト化について、データがなくて肌感になるが、実際人口が減っているというのがデータとして出ている中で、集落が機能しなくなっているというのが現状として見受けられるというのは、各地域で起こっていることだと思う。大きな課題とすればリーダーがいけないことである。コンパクトにまとめることも必要だが、大きな枠で見てみて、人口的なところを大きく変化させずに集落をちょっと広範囲で見ていく。人としてコンパクトにしていくのか、地域としてコンパクトにしていくのかという、その双方向的な観点から進めていく方が良いのではないかな。あと、各市町や県で色々とアピールしているが、段々人口が減っていく中で、各市町がアピールするというより、全体としてアピールするとか、連携を取っていくとかした方が良いのではないかな。今集落で起こっていることが今後はおそらく市町になってくる。それが今度は大きな範囲で人口減少が今後起こってくる。出生率から見ても人口が減ってくるのは明白なので、そういった中で大きく手を取り合える環境をつくれるという形を、集落を超えて、市町を超えてということ、今回、中山間地域などは色々な協定を結べる環境なども合わせてつくっていける流れで見てもいいのではないかな。これは、持続可能な地域づくりに向けた集落対策に関わることだと思っているので、そういった中の細かい文言でそういった展開も

視野に入れているという形であればいいかと思っている。

(委員)

- ・ 「シン・ファミリーフレンドリー」について、「家族で暮らしやすいまち」とあるが、「家族が暮らしやすいまち」の方が良いのではないかと、検討してほしい。

【今後の審議スケジュール】

事務局から、小委員会での意見を踏まえた骨子案を審議会で審議すること、また審議会での意見を踏まえ、今後の素案に反映していくことについて説明。

(委員長)

- ・ 審議会で審議する資料に本日いただいた意見も反映するが、委員長預かりで、事務局と調整しながら進めていく。

7 会議の資料名一覧

資 料 1 安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン改定の骨子（案）《概要版》

資 料 2 安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン改定の骨子（案）

資 料 3 今後の審議スケジュール

参考資料1 総合計画審議会意見への反映方法について

参考資料2 第2回総合計画審議会（令和6年12月3日開催）までの意見と対応方針について